

1995年1月17日午前5時46分…

はじめに

大阪府教職員組合中央執行委員長

田淵 直

目次

対談

その時、大阪教組は

資料

「月刊 自治研」(95年3月号)に掲載された樋口書記長の報告

19

1月22日午前8時

大型トラック2台とワゴン車で

21

日教済大阪支部の取り組み

日教済は給付に全力

22

子どもたち、教職員の被災体験

その時、私は…

27

悪い夢でも見てんのかと思って、何が何か分からへんかった。

28

近所の子が死んだ。弟や妹の同級生も死んだ。ぼくたちの町が、須磨

の町がなくなってしまう。なみだが出そうなくらい、悲しかった。

29

死ぬのは一瞬のことだなと脳裏をよぎった。悪夢のようだった。

32

私は声も出ず、頭から布団をかぶってひたすらじっとしていました。

33

すると、ドーンと住んでいるマンションが動き、ガタガタと家中が

揺れると同時に…

34

「地震？」その瞬間、テレビも消え、真っ暗闇になる。

38

犬が瓦の落ちる音や異様な空気になり声をあげて

おばあさんは、黙ってパンを差し出した

被災した両親を捜しに行った組合員の体験記

まさに間一髪。でも、…

## そして、教育復興ボランティア…

たった一泊二日という短い期間ほんやりしてはいけないというあせりでいっぱいでした。

一番印象に残ったのは、生活物資をリヤカーに積んで学校の外の地域を回ったことです。

電車が進むにしたがって倒壊した家屋が急激にふえていく。心が締めつけられるような風景だ。

20日から、やっと授業が始まるというので、たった二つの空き教室のそうじも手伝いました。

「あのね、うさぎさんのえさがないの。」 「僕の眼鏡が、壊れないでみつけたの。」

水道は27日より復旧したもののガスがまだ出ていない為、校庭で火を焚いて湯を沸かす。

かぜやインフルエンザなどが流行っているようで、たくさんの方がマスクをしています。

二カ月すぎた現地でしたが、すべてに大変さがひしひしと感じられた

38 39 40 47 50 52 52 54 55 56 57

二日間でした。

風呂やトイレはもちろんのこと朝起きて顔を洗うのも不便でした。

当たり前に三食を食べれるのはいつだろうと、険しい気持ちになりました。

夜は町全体がゴーストタウンになる。女性の先生はできるだけ早く帰っ

てもらおうように……

**ボランティア報告メモ全記録**

**ボランティア記録ノート**

**教育復興ボランティア参加者名簿**

**「その時」を、どう伝えたか。**

**子どもたちから、そして親からの手紙**

**編集後記**

58

59

59

60

61

89

103

111

145

教育文化局長 新居 晴幸